

# 受難節第2主日

**朝第1礼拝** 9:00~10:00  
**朝第2礼拝** 10:30~11:45  
 <神の招き>  
 前 奏 ①あがない主にみ栄えあれ カウフマン  
 ②我らに幸いを与えしキリストは バッハ  
 招きの詞 詩編67:2~8  
 交読詩編 130:1~8  
 讃美歌 16  
 <神の言葉>  
 聖 書 出エジプト記3:1~6  
 (旧約 聖書協会共同訳 88頁)  
 マルコによる福音書12:18~27  
 (新約 聖書協会共同訳 85頁)  
 祈 禱  
 讃美歌 56  
 説 教 「復活の時」 熊江秀一牧師  
 祈 禱  
 黙 想  
 讃美歌 575  
 <神への応答>  
 使徒信条  
 献 金  
 主の祈り  
 宣教報告②  
 頌 栄 28  
 派遣と祝福  
 後 奏 ①わが生命なるキリスト パッヘルベル  
 ②主キリストに感謝 バッハ  
 宣教報告①

**夕 礼 拝** 18:00~19:00  
 <神の招き>  
 前 奏 神の汚れなき小羊 バッハ  
 招きの詞 詩編67:2~8  
 交読詩編 130:1~8  
 讃美歌 217  
 <神の言葉>  
 聖 書 イザヤ書35:5~10  
 (旧約 聖書協会共同訳 1100頁)  
 マタイによる福音書12:22~35  
 (新約 聖書協会共同訳 22頁)  
 祈 禱  
 讃美歌 517  
 説 教 「まさか、この人が」 甲賀正彦牧師  
 祈 禱  
 黙 想  
 讃美歌 561  
 <神への応答>  
 使徒信条  
 献 金  
 主の祈り  
 宣教報告  
 頌 栄 28  
 派遣と祝福  
 後 奏 血潮したたる パッヘルベル

### 今週の御言葉

(マルコによる福音書12:25)  
 死者の中から復活するときには、めとることも嫁ぐこともなく、天の御使いのようになるのだ。

### 次週の礼拝(3月23日)

① 9:00、② 10:30 説教「最も重要な掟」 熊江秀一牧師 レビ記19:9~18、マルコ による福音書12:28~34 交読詩編86:5~10 讃美歌17、57、543、28	サテライト植竹礼拝10:30 ☑18:00 説教「サタン、引き 下がる」甲賀正彦牧師 ヨブ記1: 1~12、マタイによる福音書 16:13~28 交読詩編86:5~10 讃美歌51、504、518、28	ワーシップ(賛美礼拝) 14:00 説教 「光の子」熊江秀一牧師 エフェソの信徒への手紙5: 8~11 賛美:さあ賛美し よう、御恵みと平安、同じ空 の下で、他
--	---	--

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☑は夕礼拝。

■**今週の祈禱課題**■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。  
 1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に  
 3. 受難節(レント)の歩みの為に 4. 選出された長老の為に  
 5. 関連幼稚園の年度修了式の為に 6. 埼玉地区総会の為に  
 7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に 8. 病気の兄弟の為に  
 \*関東教区お祈りカレンダー 秩父教会 北本教会

◇先週の説教より 「宣教の準備」 マタイによる福音書4:1~11、申命記30:15~20 甲賀正彦牧師

イエス様は40日の断食の後、悪魔の試みを受けました。40日は人間の限界を超えています。生きるか死ぬかのギリギリの状態です。イエス様は、石をパンに変えない、飛び降りない、拝まない。何かをすることがありません。イエス様がしたことは、わずかな御言葉で対抗すること。その御言葉は子どもの暗誦聖句でした。意識が朦朧とする中でも、子どもの頃覚えた言葉は体が覚えています。悪魔との戦いは知恵比べではないのです。自分の力を削ぎ落として、自分を無にして、神様にだけ頼る経験をする。それがイエス様の宣教の準備であり、私たちの宣教の準備でもあります。

宣教とは、策に溺れる事なく、子供のような素直さで事に当たる、ということではないでしょうか? 難しい理論武装などしないで、大切なことだけを覚えて、身軽に、手ぶらで、無力な子供のように「教会に行こうよ、一緒に聖書を読もうよ、お茶を飲もうよ、カレーを食べようよ、一緒に讃美歌を歌おうよ!

よ!」それでいいのではないのでしょうか?  
 ただ、子どものように無防備に心を開くと、拒絶されたとき傷つきます。まごころを傷つけられると傷が深い。でも挫けてはいけません。イエス様は共にいてくださり、傷を癒してくださいます。教会の仲間もいます。「そう、宣教は難しいよね」。みんなわかってくれます。宣教は簡単だ、なんて言う人に私は会ったことがありません。

礼拝が終わると、私たちはこの世に送り出されます。「心の中に蒔かれたその種、行動の花を開かせる」のです。御言葉は私たちを元気にする種ですが「行動の花を開かせる」までにはなかなか行かず、種をにぎりしめたまま、教会に帰ってきてしまうのです。しかし、いつか蒔くときは来ます。

送り出されるのは平和を実現するため。どんなに小さな平和でも、作り出せればそれは素晴らしいこと。平和を作り出すことは宣教、共に喜ぶことができるのが宣教です。